

令和4年度第1回静岡県立中央図書館協議会議事録（要旨）

- 1 日時 令和4年6月8日（水）午後1時30分から午後4時まで  
2 会場 静岡県立中央図書館 3階会議室  
静岡県駿河区谷田53番1号 電話番号054-262-1242

3 出席者

(委員)			(図書館)		
委員	轟木	堅一郎	館長	柴	雅房
委員	澤本	由美	副館長兼総務課長	殿岡	容子
委員	内山	淳子 (Web)	総務班長	遠藤	一穂
委員	庄田	達哉	主査	真野	聡
委員	杉山	綾菜	企画振興課長	田辺	章
委員	鈴木	真澄	企画班長	青木	修
委員	鈴木	千明	資料課長	木村	知美
委員	山崎	克巳 (Web)	調査課長	仲村	修也
委員	吉見	光太郎	教育主幹	望月	克洋
			社会教育課		
			新図書館整備室	渡辺	勝

4 内容

- (1) 開会
- (2) 館長挨拶
- (3) 会長挨拶
- (4) 副会長選出
- (5) 議事

- ア 県立中央図書館の状況及び令和4年度主要施策について  
イ 令和4年度各班等重点取組について  
ウ 新県立中央図書館の整備について  
エ その他

【質疑応答・意見交換】

- ア 主要施策について  
イ 重点取組について  
(委員) 企画振興課企画班の取組について、研修方法に関してオンラインか集合型ということだが、オンラインの場合は動画配信、Zoomのイメージが良い

か。

グループトークやアバターでの参加もできるようなシステムを（県立大学では）使っていた。

（図書館） ブレイクアウトルームを使用している。

（委員） 振興班の取組で訪問による支援を検討するとあるが、他の地域での取組やモデルケースとなるようなものはあるか。

（図書館） 代わりにどのような支援策にするかは、これから情報収集し検討していく。具体的には未定である。

（委員） 図書館DXについて、実証実験をこれまで行ってきた動きがあるが、具体的に今後は何を取り組もうとしているか、最終的にこうなるというイメージを持っているか。

（図書館） 昨年度行った実証実験は、利用者登録をオンラインでして、スマホにバーコードを表示し、カードとして使用、来館しなくても利用者登録ができる、来館しなくてもインターネットで予約できるということを進めた。

また、電子図書館も開始し、電子書籍はまだ少ないが、これから増やしていく状況である。将来的に新館になる令和8年、9年のイメージまでは具体的な想定はないが、次世代、状況に即したDX図書館ということで考えている。

（委員） 新館の話があったが、コロナ禍、足を運ばず資料を入手したり借りたりでき、私も本を作る際、ネット申し込みができるようになり、利便性を感じている。ユーザーも多くなっており、電子図書館も10年で増えている。

調べたところ、県内市町図書館では、浜松、磐田は電子図書館を行っているが、他に（電子図書館を）実施している図書館、取り組まれているところはあるか。

（図書館） 県内市町でも電子図書館を立ち上げようという動きがかなりある。昨年度の段階で熱海市、浜松市、磐田市が実施していたが、コロナ禍を受け、沼津市、掛川市も始めている。他にも動きがあると聞いてはいる。今後増えていくのではないか。

（委員） 書籍を作る立場なので、書籍の電子化を今後どのように進めていくか、電子図書館の普及が、大きな鍵になってくるので伺った。

電子書籍はコロナ禍で、非常に便利だと感じた。

電子コミックの普及が著しく、子供たちが電子で読む方が紙（の本）で見るよりも多くなっている。児童書もこれまであまり電子化されていなかったのが進められていて、展開が変わってきている。業界も電子にかなりシフトしている。紙がダメというわけではなく、図書館でも今電子書籍利用者が2割程度とのこと、残り8割が電子に入ってくれば、全体の利用者

が増えるのではないか。紙の書籍の今後の普及にもいずれ繋がり、波及してくのではないか。今はそのプロセス（過程）だと思う。

(委員) 私は（地元図書館から）歩いて30分ぐらいのため、月に2、3回訪れ、電子図書館も利用している。じっくり読みたい本は棚から選びたいので図書館に行き、電子書籍の本は調べものや、散歩時に花の名前を確認する等、図鑑として利用という使い方が増えた。大変便利で、あわせて図書館のページを見ている。両方とも今後も上手に使用したい。

サピエ図書館の情報をぜひツイッター等で広報してもらいたい。とても便利であり多くの県民に活用してもらいたい。

自分も視力が弱くなったときがあり、将来見えなくなったらどうするか考えたことがあった。電子図書館やスマートスピーカーを活用、障害者だけでなく、高齢者や、いろいろな方が使いやすいようなものになるようぜひ取り組んでほしい。

また、小学校の読み聞かせが再開されたが、コロナ対策から、子供たちがipadでモニター越しに見るという形で行われた。子供たちは以前は机を後ろに下げ、教室の前に集まっていたが、今は机を離し教室全体に子供たちがいるため、後ろのお子さんが本が見えないということで、そのような形をとっている。私は絵本ではなく昔話を覚えてストーリーテリングしているため、子ども達の顔を見てできるが、何年か参加していないだけで、小学校の現場も変わってきたことに驚いた。

(委員) インターネットで利用者登録ができるようになったと聞いたが、大学生はカード等を持って歩くことが煩わしいと考える人が多く、スマホだけ所持し、支払いもスマホで、ということが増えている。カードを持っていても図書館に行くのに持って行くのが煩わしいため行かない、という人も多く、（書籍は）ネットで購入、電子書籍で読むという人が大変多い。バーコードで貸し出せるようになるというのは、すでにカードを持っている人も登録すれば使えるようにはなるのか。

(図書館) バーコード表示機能登録は、今貸し出しカードを持っている方も基本的に大丈夫である。登録方法は、ライブラリーでマイページを作る必要がある。用意をするのはあくまでパスワードだけのため、難しくはない。現段階で貸出カードを持っている方も、スマホでバーコード表示することが可能である。ウェブで利用者登録をした後に、現物のカードが欲しいという場合は、来館していただき、再発行手続きを経て発行している。

当館としては、静岡県は非常に広いため遠隔地の方々が当館を利用できないという課題の解決として、来館しなくても利用者登録できる、市町受取りサービスで近くの図書館で資料を受け取ることができる、という一連

のサービスと考えた。

(委員) 調査課一般調査班の学校支援として6月に学校図書館とリテラシー、8月に情報リテラシー講座を実施している。講座開催後、実際にどうだったか、どういうふうに思ったかというフィードバックを得て、講座内容を改善する活動はされているのか。

(図書館) 本年度初めての試みであり、講座受講者は高校教員対象だったが文化祭と重なったため、6名のみだった。教育支援の一環で（まず教員が）力をつけるということの一つの目標に据えている。次に（教員を通じて）生徒が自分で、ネットをただ見る、ただ検索する、のではなく、よりピンポイントにどういう情報を得たいからそのデータベースがあるのか、どのように検索するとよいのか、項目が見つかるのか、を目指している。

まず教員支援をし、その教員が児童生徒にそれを伝えていく、いわゆる課題解決に繋げていく。それが最終的に図書館を利用しなければいけない、図書館をもっと利用する、価値が出てくる、そのように好循環していくような講座を行った。

成果は、学校に持ち帰り実践し、更に8月の研修は例年60名近く参加予定のため、その研修後に把握したい。今後は御意見のような情報を集め、今後の研修計画に繋げていきたい。

(委員) 電子図書館およびWeb利用者登録について、遠隔地に住んでいる方にこそこの分野を広げていただきたいと考える。特に、若者だけではなく高齢者は静岡市まで行けないということもある。視力が衰えてきて小さな字が読みにくいため、電子図書館で拡大文字にしたものを読みたいということもある。最近になって電子書籍というものを読み始めた。便利だが、遠隔地にいる伊豆半島にいる高齢者は使い方がわからないという人が多く、利用者登録をしたくても利用方法は小さい町の図書館ではやっていないため、まずは図書館職員に研修会をして、広めることをしていただきたい。高齢者・遠隔地在住者も県立図書館を利用できるようになると思う。変革期の話があったが全く同感である。県立図書館が県全体の県民を意識した、非常に良い取り組みだと考える。

(委員) 電子書籍の使用方法については、動画で使い方を置いておけば、わかりやすいのでは。YouTube、TikTok等も見るとわかりやすく、マニュアル代わりにはなる。このような立場のため非常に多くの資料を拝見でき、図書館の取組について知ることができた。非常に多くの取組をしているが、広報、県民に対して普及がされていないのではないか。プレスリリースを細かくしたほうがいいのではないか。新しいことを始める度に情報を出し、何度も広報していけば、徐々に浸透していくのでは。

中央図書館のホームページについて、昨日ふじのくにアーカイブで適当な資料を見つけた。アーカイブは古文書や県史編纂の際に集められた資料など、かための資料と認識していたが、絵はがきもあった。古い写真を探していたが、ネットで検索してもヒットしなかったが、中央図書館のホームページにはあった。クローラーは情報を収集する手段だが、情報を提供する方法も工夫が必要で、上手に検索に引っかかるように研究してほしい。1回使えば利用者は図書館のホームページは良いと認知するので利用者増につながるかと思う。

(図書館) 御意見を反映し、館内、業者とも情報を集め実現に向けて検討していきたい。

(委員) 学校では、令和2年度が小学校、令和3年度から中学校の学習指導要領が改訂され、学校図書館の活用、情報教育の強化等謳われている。それを基に進めていこうとしたが、コロナで1人1台端末GIGA構想の下、オンライン授業への対応が急務になった。学校現場では、図書館活用と端末活用その両立が必要という結論に落ち着き始めている。

学校の教員の研修について、静岡市も教員、学校司書と市町図書館の司書が連携しながら研修を進めている。教員も業務多忙のため、図書館のことに手が回らない実態もある。県立図書館で、市町図書館司書向けに学校連携の内容の研修をしていただくとありがたい。

(委員) 前回の協議会で、予算が削られているとのこと。今回はどうか。その後、進捗状況を聞かせていただければ。

(図書館) 今年度は資料充実費(=資料購入費)は増額した。ただ、実際にはコロナ対策等の県の支出は(変動が)大変大きいため、全額執行できるかどうか(執行留保の可能性)はある。しかし、本年は昨年度よりは増額している。

(委員) 電子図書館について使用者が増えてきている。書店を代表しての意見として、電子書籍は非常に便利であるという認識である。個人的にも使用する。本は電子では読まないが、YouTubeは見る。前々回の会議で電子書籍のコミック増と、今後減ることはないと予測したが、去年は「鬼滅の刃」、「呪術廻戦」のヒットがあり紙の本の売り上げが今までにない数字が出ていた。小学生は電子書籍は購入できない。親が紙の本が買っているということもある。

小さいときから電子書籍だけ読んでいると、いろいろな問題が出てくるということは、国でも指摘をされている。それでも、教科書も英語の教科書などはQRコードが入っていて、ネイティブの発音が出て、素晴らしいところもある。授業を紙だけでするより、動画等を見ての方が生徒も興味

が出てくると思う。

我々大人も観光地に行けば、単にその歴史のものを見るより説明QRコードと観光するとよりわかりやすく、理解が深まり楽しい。否定するわけではなく併用していくのがいいのではないか。

目が悪くなることも立証されているため、最初から使ってしまうと悪くなるという問題もある。電気代充電代がかかるため、電力不足、電気代高騰と、生活に対して逆の行動を取ることもなる。SDGsの面からは、全部電子になることは問題である。。

技術的な話だと、出版社は電子だと紙で作らなくていい、費用もかからない、となる。大手出版社は、労働力は半分以下であるという。いろいろな材料を使わなくなるということ自体が、SDGs的にはいいという意見もある。

前々回、やはり子供は（紙の本を）買いましょうと（話した）。小学生から全部電子化というのは危険性がある。理解度も含め、個人的にランドセルに忘れ物をしないよう教科書を入れ持ち帰る、というのが良いのではないか。（タブレット端末の方が）重くなくて良いという意見もあるが、それでは（紙の教科書、本は）全部いらぬということになってしまうので。

図書館も、子供の頃から電子書籍で読んでいけば紙の本を読むということとはなくなるのではないか。図書館がいらぬということに結びつき、いかがなものなのか。大人は紙の本で読むことが多い。教科書については、2024年に小学校の教科書から改訂しデジタル教科書の本格導入となり、何教科かは入れてやっていくということがほぼ決まっている。

電子がいいのか、小さい頃から全部使っていくのがいいのかというのは、我々大人の、子供たちのため、今後の日本のためにどうなのか、意見としてとらえていただければと思う。

（委員） 委員の意見に大賛成であり、電子図書館が良いという話もしたが、公共図書館は、学びの格差を是正するためにも、子供、高齢者、全ての人にとって、紙媒体資料も電子資料も大事と考える。電子書籍については、遠隔地域の高齢者が（静岡まで）行かなくていいという、メリットもある。確かにパソコンを持っていないスマホを持ってないという高齢者はいる。その人たちが学ぶ機会が少なくなってしまう。子供のためにも年配者のためにも、両方必要だと思う。

市町立図書館支援の再検討で、市町立図書館の自立が増加しているため、頻繁な訪問を必要としない図書館もあるとのことだが、訪問を必要としている図書館も多い現状も認識していただきたい。オンラインも便利だ

が、直接会っての対話は少人数の市町立図書館にとって、県立図書館の来館、情報提供、運営相談はとても大切である。

紙の本と電子書籍、直接の訪問とオンラインによるやりとり、両方続けていただきたい。

(委員) 令和4年度重点取組調査課障害者サービスの取組について、現状、課題、(ユニバーサルの)取組みをされようとしていることは非常に素晴らしい。障害者だけではなく、多目的トイレを整備するとか、いろいろな人が使いやすい利用しやすい取組みを進めていただきたい。ユニバーサルは非常に幅広くなっており、取組が大変なため、ニーズの掘り起こしをどのようにしていくか、サインの文字を大きくするとか、ハード関係だと書架の配架、高さとか、取り組まなければならない点が多くあるが、ユニバーサルの取組みについては大賛成で、ぜひ頑張ってください。

障害をもつお子さんのお母さんと面談をする機会が多く、静岡市内でも広範囲の図書館利用をする方に今の図書館はどうですかと尋ねてみたところ、県内だけでなく静岡市内でも、(照明の)明るさ、蔵書数の違いとか、いろいろ違うという話があった。市内も含め情報共有をし、反映すれば素晴らしい図書館になるかと思う。

また、図書館は静かでなければというイメージがある。障害の特性として動きが多い例や声が出てしまうこともあるため、声のしない図書館もいかがだろうか。同時に、学習スペースでは(静かにした方が)というように言っていた。大人が勉強できるスペースがあるといい。図書館自体は静かでも、1室のみBGMを流すなどして、障害があるお子さんにとっては明るく楽しい雰囲気のコナーがあってもいいのではと思う。

(図書館) 「静か」ということ「話す」ということは図書館の課題である。当館も専門書が揃っているため、閲覧室は静かな雰囲気だが、それ以外のどんぐりひろばがあるインフォメーションホールは、話をしても良いというスタンスでスタートした。ただ、コロナが始まった頃と同時だったため、利用者に話して良いとは積極的に声かけはしにくく、浸透しないところである。棲み分けをも踏まえ、新館ではどのようにするか考えていきたい。また、大人が気軽に勉強できるということも、おっしゃる通り大切である。閲覧室、当館2階は学習コーナーもあるが、学生だけでなく幅広い年齢層の皆さんが勉強している。今後も継続して提供できればと思う。

(委員) もう一つ、健康医療情報委員会について。私はソーシャルワーカーで、課題解決支援に携わっている。図書館のこの取組はどのようなことを意図しているのか。

(図書館) 健康上の課題解決について扱っている。医療関係はプライベートな部分

への配慮が必要である。まず本人自身が参考図書をきっかけにピンポイントで現況を知り、その領域にたどり着き、さらに幅広くどのようなものを見ればいいのかをたどり着くように考えている。

(委員) もし自分が病気かもしれないというときは、ドクターの出しているブログに辿り着く。図書館になかなか行かない。そこに工夫があると違うのではないか。いい取組をされているが県民に周知されていないように思われたため意見として述べた。応援したい。

#### ウ 新県立中央図書館の整備について

(委員) 重点取組説明の際、公立図書館は本を求めてくる人へのサービスが中心だと感じた。学校図書館は、本に興味がない子をいかに図書館に導くかということに力を入れているところに違いがある。新県立図書館について、「新しい試み」の部分が、公共図書館の重点取組説明の中で少し物足りないと感じていた点だったので、非常に良い取組みだと思う。1階2階の2つの階のスペースには、たくさんの方が集まると思うので、その来場者をいかに上の階に誘（いざな）っていくのかというのが、大切なポイントになる。検討いただきたい。

(委員) 電子書籍、遠隔地の利便性について話したが、足を運んだらもっといいことがあるという図書館になっているかどうか非常に大切どころでは。この設計を見る限り、そのような図書館になっている。サービス面はこれから検討が必要。時代は変わるため、追いついていけるかどうか重要である。

いろいろな企業と情報交換すると、DXを非常に意識している。例えば図書館窓口での貸出し手続きは、全部無人でできるのではないかと。本を書庫に取りに行ったりするようなこともしなくても済むのではないかと。いろいろなことが、これから一般常識としてなってくるので、いかに時代に合わせてサービスが提供できるかということも考え、計画を進めていただきたい。

(委員) ワクワクするような雰囲気になっている。

外のテラスがあるということも良い。現図書館もこの（緑豊かな）風景が素晴らしい。もちろん本を見に来るが、緑の中を歩いて目の保養になることもいいことである。生活の一部として高齢者が図書館に足を運ぶことが日課になっている方もいる。そのような役目も非常にあり、健康にも繋がっている。子供たちが電子書籍のみになってしまったら、紙の本の頁を開く習慣がなくなれば、立派な図書館の意味がなくなってしまう。

やはり図書館の重みというのは紙の本があってこそだと思う。図書館は



紙の本が置いてあってこそこの図書館だというように、良質の本は残っていて欲しいと、個人的に思っている。

(委員) 現県立図書館は、大学に近いので、専門的資料が充実されており、美術館に隣接しているため落ち着いて勉強ができたか資料が探せたりという点で、とても静かに過ごせる。静岡市立図書館は、高校が坂の下にあるためCD、漫画、ライトノベル等の若者が入りやすい本がたくさんあり、若年層が大勢いるという印象がある。清水中央図書館は、蔵書がかなり多く、子供の読み聞かせのスペースの壁には折り紙や切り紙の絵が貼ってあり、絵本もたくさん置いてある。児童の年代によって本の置き場を分けていたり、高齢者から小さい子までいろいろな年代の方がいつでも和気あいあいと、「静か」ということもなく、少し会話があるぐらいの図書館である。とても過ごしやすい。各図書館に特色があると考えているが、新しい図書館は全部つまっている感じがあり、さらに東静岡駅の前にあるということで、大学図書館があるので公共図書館には行かないという大学生も、1人で立ち寄ってみようかと思えるようなとても素敵な図書館である。

どうなるのかはこれからの段階かと思わるが、エレベーターがあり、階層が7、8階近くとかなり高い建物になっているため、動線がしっかりしていないと、エレベーターの数が少ないために待たなければいけない。自分の目的としたところだけ行ければいいというようになる可能性がある。広さやいろいろなスペースがあることを活用しきれない可能性がある。設計の話になるが、いろいろなところに行きたいと思わせる動線に、空間作りにできていたらとてもいい。

(社会教育課) この建物は縦に高い8階建てに加え、中間階もあるため、縦動線をしっかりしなくては、住み分けが切れてしまう。下から上に吸い上げることができないという話になる。動線をどう強化していくか、例えばエレベーターの数を増やす、アクセスしやすい場所に置くについて、こちらも問題意識は持っているので、重点的に検討していきたい。

(委員) 新県立図書館についての追加質疑だが、以前新館に書店も入れた方がいいのではないかという案があった。今回のこの案にその案は入っていないか。入らなくてもかまわないが、書店と図書館が一緒になっている公立図書館もあるため。

(社会教育課) 1階2階部分の新しい図書館機能の部分については、今のところ民間企業が入って運営することを想定している。その提案の中に、ショップ等の提案が出てくる可能性もある。どのようなところにするのかは、実際に入る業者と相談して決めていきたい。

(委員) これだけの素晴らしい施設になれば、来館者が多くなる。カフェテラス

があると記載があるが、食事をしたい方も出てくるし、飲食して良いフロアとかフードコートのような場所も必要ではないかと思いました。